

## 近藤祐一郎氏

公立藤田総合病院院長

## 寺島長司氏

社会福祉法人国見町社会福祉協議会会長

### 地域包括ケアから地域共生社会へ

### 中核病院と社協が実践する切れ目のない連携

人口減少と高齢化が進む地方都市で、医療と福祉はどう連携し、地域を支えていくのか。福島県伊達地方の中核病院として70年以上の歴史を持つ公立藤田総合病院（以下、藤田病院、福島県伊達郡国見町）と、地域福祉の推進役である国見町社会福祉協議会（以下、国見社協、福島県伊達郡国見町）。両組織のトップが語る、地域包括ケアの現在地と、地域共生社会への展望とは。

#### 地域連携室が紡ぐ 病院と社協のネットワーク

**近藤** 藤田病院は国見町、桑折町、伊達市の1市2町で運営する公立病院で、1952年の開設以来、この地域に根を張ってきました。現在は311床の総合病院として、幅広い診療科を擁しています。この地域は開業医が少なく、診療所は国見町に2件、桑折町には3件程度です。そのため当院が地域医療の中核を担っています。訪問診療にも力を入れており、60〜70人の患者さんを訪問しています。老健施設の嘱託医も務めていて、後方支援を含めた地域包括ケアシステムの構築に長年取り組んできました。

**寺島** 私は県内の厚生連病院の事務長や福島市のあづま脳神経外科病院の事務局長も務めました。2021年から国見社協会長の職に就いています。県内の救急医療病院群輪番制運営協議会に関わっていた際、藤田病院が伊達地方の